

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄
 No. C-46

【様式2】

部門名：
 地域とともにある学校実践部門

エントリー名：
 荒尾市立荒尾海陽中学校 今村啓浩
 平成30年第1回次世代リーダー研修

活動名：
自己肯定感を高める取組 ～生徒会主体の活動を通して～

解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？
 本校の生徒の状況として、仲の良い友だち関係であっても、注意し合えない、高め合うことができないといった生徒が多い。本校がある荒尾市では学び方改革の取組として、一人で学ぶ「一人学び」や周囲のクラスメイトとの対話や教え合いからなる「学び合い」の学習過程を取り入れている。しかし、お互いに関わり合うことが得意でないため、学び合いの深まりや生徒たち同士の高め合いが不足し、自分の考えや思いを伝えるというモチベーションにつながらず、アウトプットの活動が効果的に行えず学習内容の定着につながらない。また、それにより学習意欲が下がってしまうといった負のスパイラルが見られていた。昨年度前半に実施した授業アンケートにおいて、「授業中に発表する人の意見は、周りの生徒は真剣に聞いている。」という質問項目についての生徒の回答は、「よくできている」と答えた生徒の割合が25.3%であった。周囲の友人の意見に耳を傾け、ともに学び合おうとする姿勢に課題があることが明らかになった。
 また、これまで本校生徒は地域や学校の呼びかけで、ボランティア活動に参加をする生徒はいたが、他の団体が企画したものに参加をする形のものが多く、「やらされている感」を持っている生徒が多かった。

目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？
 ①生徒会が主体となったボランティア活動を企画し、全校生徒で取り組むことで自己有用感と他者とのつながり意識を高める。
 ②授業の中での「学び合い」の目指すものがどのようなものか、教師と生徒で共通理解をする。
 ③支持的風土を高めるために、お互いの思いを知る場を積極的に設定する。
 ④学級の中での自分自身のあり方を振り返る「学級力アンケート」を実施する。見えてきたクラスの客観的な数値とクラスの良いところと成長のチャンス(課題)から、今後自分たちがどうあるべきかを学級の中で議論させ、集団への帰属意識を高める。

本校が抱えている課題を解決するために、上記のような取組を行った。

活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。

① 生徒会によるボランティア活動による自己有用感を高める取組
 ・ボランティア活動には興味がある生徒が多く、地域の植栽ボランティアには200名程度が参加した。
 ・本校が取り組んでいる熊本県版コミュニティ・スクールの地域づくり協議会という会議のなかで、生徒会執行部の生徒たちが主体となって、校区に住まれているお年寄りのお宅を訪問し、普段できないところの掃除などのお手伝いをしたり、話し相手になったりできないかなど、地域のためになる活動をしたいと提案した。生徒会執行部生徒が考える取組に地域づくり協議会、地域の民生委員の方々とは対話をしながら今年度の活動内容について熟議を行った。
 ・生徒会執行部の呼びかけに対して、昨年度実施分の70名を大きく上回る135名の生徒たちがお年寄りお宅訪問ボランティアに参加を希望し、実施中である。
 ・参加希望生徒を自宅のある地区ごとに分け、名簿を作成し、民生委員の方々に届けた。



図 生徒のボランティア活動

② 「学び合い」を行う姿の共通理解
 授業の中の「学び合い」の目指す姿について統一した目標を持つために、まずは職員間でイメージや方法を共有した。また、学習集会を開き、教師と生徒が目指す授業のイメージを共有して実践を行った。

③ 思いを確認し合う活動の実施

学級行事等に向けて生徒が主体となって取り組む事ができるように声かけを行った。生徒たち同士が思いを確認し合いながら取り組むことができるように1、分間スピーチ等の思いを綴り、語る活動を設定した。また行事が終わった後に「ありがとうメッセージ」として、記入し掲示した。

④ 学級力アンケートの実施と、学級討議による学級力の向上
 昨年度末に本校の校内研究の論文を職員で読み合わせて、今後学級の支持的風土を高めていくことの必要性と方向性について確認した。今年度、校内の研究部と学級力向上プロジェクトで協力し、アンケートの項目を作成した。本校が抱えている、生徒が他の生徒と隔たりなく接するという点について、各生徒が学級を組織する個であるということに意識をさせる意味合いを持って、質問の書き出しはすべて「私は」とした。

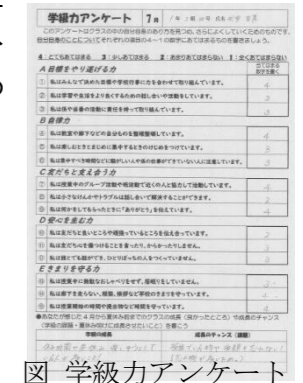


図 学級力アンケート

活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

○ボランティア活動については、継続して行うことで参加者が増加している。実施後に行ったアンケートや生徒の感想のなかには、「ぜひ次も参加したい。」とさらに誰かのために頑張りたいと考える生徒が多い。
 ○本校が課題として考えていた支持的風土づくりについては、授業アンケートの結果から、「授業中に発表する生徒の意見を真剣に聞いているか」を問う項目については、25.3%から33.7%へと大きく上昇した。
 ○職員間、教師と生徒の間で目指していくイメージを共有したことで、授業の学習規律が整い、生徒が主体的に参加する場面が増えた。また、研究授業等を通して、「どう学び合わせるか」等について職員間で実践を共有している。
 ○学級力アンケートを実施し、生徒の回答状況を集計したところ、今後取り組んで行くべき課題が明らかになった。右表で特に落ち込んでいる項目は、「⑥私は集中すべき時間などに騒がしい人や係の仕事ができていない人に注意しています。(自治)」であり、「②私は学習や生活をより良くするための話し合いや活動をしています。(改善)」である。昨年度は授業の中での関わり合いについて力を入れたが、今後は生徒たち同士の日常的な関わりについて取り組んで行くべきことが明らかになった。これから単なるデータの集計で終わらず、そのデータを用いて、学級の課題を生徒たちが考えてその解決に向けて話し合いを行うことで、学級の課題がすべて改善されるわけではないが、自分の学級の姿と、それに所属する自分自身のあり方について考えるきっかけになった。また、結果を踏まえて、学級で協議する時間を確保することで、学級の生徒間のコミュニケーションや課題解決に向けての達成感を味わわせることにもつなげていきたい。

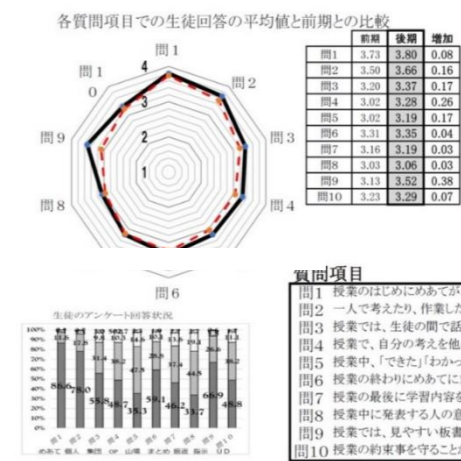


図 授業アンケートにおける生徒回答の比較



図 学級力アンケートの集計

アピールポイント (アイデアや工夫)：
 ○生徒の自己肯定感、自己有用感、学級の支持的風土を高めていくために、複数の方法で取り組んだ。
 ○職員間、職員と生徒間で目指すべきイメージを共有して、その実現に向けて取り組みを行った。
 ○今年度の結果はまだ出ていないので、継続して取り組み、検証していきたい。